

ナシ「あきづき」の果肉障害発生調査

福島県農業総合センター 果樹研究所栽培科

1 部門名

果樹－ナシ－生理障害

2 担当者

額田光彦・湯田美菜子・斎藤祐一・阿部和博

3 要旨

「あきづき」の果肉障害は西日本を中心に年により大きな問題となっている。本県ではまだ問題とはなっていないものの、今後の温暖化等の気象変化により発生が危惧される。このため収穫時期と障害発生の関係について調査を行った。2012年は10月5日（満開後157日）、10月11日（満開後163日）に各60果を収穫し、障害発生状況を調査した。

(1) 満開後157日の果肉障害発生率は16.7%と低かったが、満開後163日には46.7%と高くなかった。過去3カ年の調査でも満開後160日以降で発生が多くなっている。障害程度はごく軽微であり、商品化には影響しないものがほとんどであった。こうあ部近傍に多く発生し、色は褐色であり、水浸状を呈したもののが多かった（表1、図1、図2）。

(2) 障害果と健全果との着色状況の比較では、障害果の着色指数が高く、熟度が進むと障害発生が多くなる傾向が見られた（表2）。

(3) 障害発生を少なくするためには、満開後160日までに収穫を終えることが必要と思われた。

表1 「あきづき」の水浸状果肉障害調査結果（2012年）

満開後	障害発生率	障害程度	部位別障害発生率			症状別発生率	
			高	中	低	水浸状	コルク状
157日	16.7%	1.1	60%	10%	30%	70%	30%
163日	46.7%	1.2	61%	21%	18%	93%	7%

障害程度； 0:無 1:微 2:軽 3:中 4:多 5:甚

発生部位； 低：ていあ部近傍 中：赤道部近傍 高：こうあ部近傍

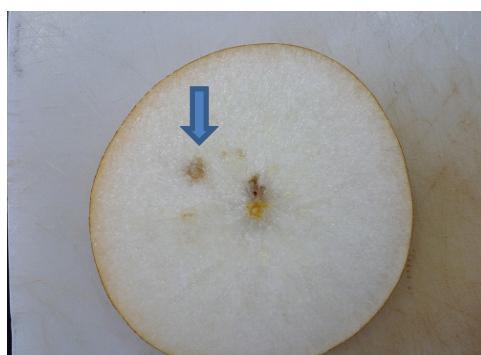


図1 「あきづき」の水浸状果肉障害(2012年)

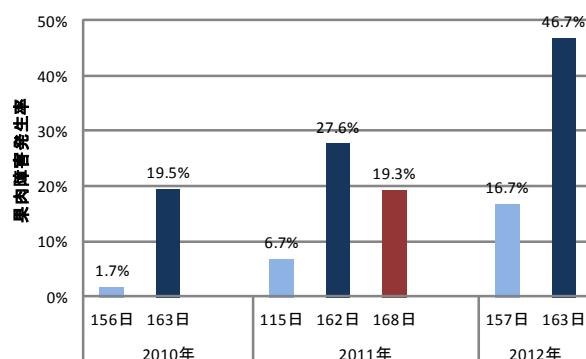


図2 「あきづき」の果肉障害発生率

表2 障害果と健全果の着色状況 (2012年)

着色指数 ^a	
障害果	4.20 ± 0.93
健全果	3.62 ± 1.07

a:「あきづき」ていあ部の着色を5段階に区分し指
数化したカラーチャートを使用
収穫適期:着色指数;3.0

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成22年度～24年度
- (2) 研究課題名 「あきづき」の果肉障害発生低減技術の開発
- (3) 参考となる成果の区分（指導参考）

5 主な参考文献・資料

- (1) 平成24年度試験研究成績書